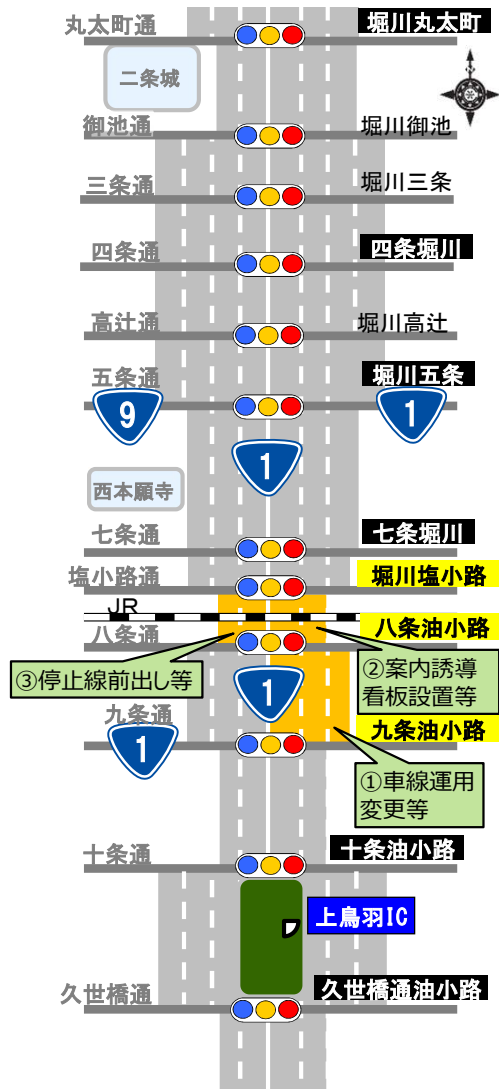


令和 8 年度 京都府域渋滞対策協議会

堀川通・油小路通の短期対策実施状況

1. 堀川通・油小路通の概要

- 平成30年1月に、「将来道路ネットワーク研究会」が「京都市の将来を見据えた道路ネットワークのあり方(とりまとめ)」を公表。
 その中で堀川通の整備は喫緊の課題であるとともに、『まずは**交差点改良等の短期的な対策を進める**』こととされた。
- 市内中心部における南北方向の交通について、JR東海道本線交差部では縦断する路線が減少することに加え、
 特に**堀川通では車線数が減少し、ボトルネック**となっている。
- そこで、堀川通・油小路通では継続的に渋滞対策を実施しており、令和2年度までに3箇所の対策を実施している。



検討経緯・状況

H30

「将来道路ネットワーク研究会」(※事務局:京都市、メンバー:国土交通省、京都府、京都市、学識経験者)

- ・JR東海道本線交差部周辺のボトルネック箇所など、主要渋滞箇所が連続する堀川通でその傾向(容量不足による需要過多)が顕著
- ・堀川通の整備は喫緊の課題であるとともに、『まずは**交差点改良等の短期的な対策を進める**』こととされた

R1

対策①: 九条油小路～八条油小路交差点間(南進)の車線運用見直し

R2

対策②: 八条油小路交差点(南進)の路面標示、案内看板設置、歩行者青時間短縮

対策③: 堀川塩小路交差点(北進)の交差点コンパクト化

R6

短期対策の実施状況と結果を報告

- ・対策実施により堀川通(八条油小路～九条油小路)で速度が向上
- ・対策前後で速度の改善はみられるが、速度の低下区間や時間帯は残存

R7

ETC2.0データを用いて堀川通・油小路通の課題抽出と対策検討を実施

- ・ボトルネックを分析

R8

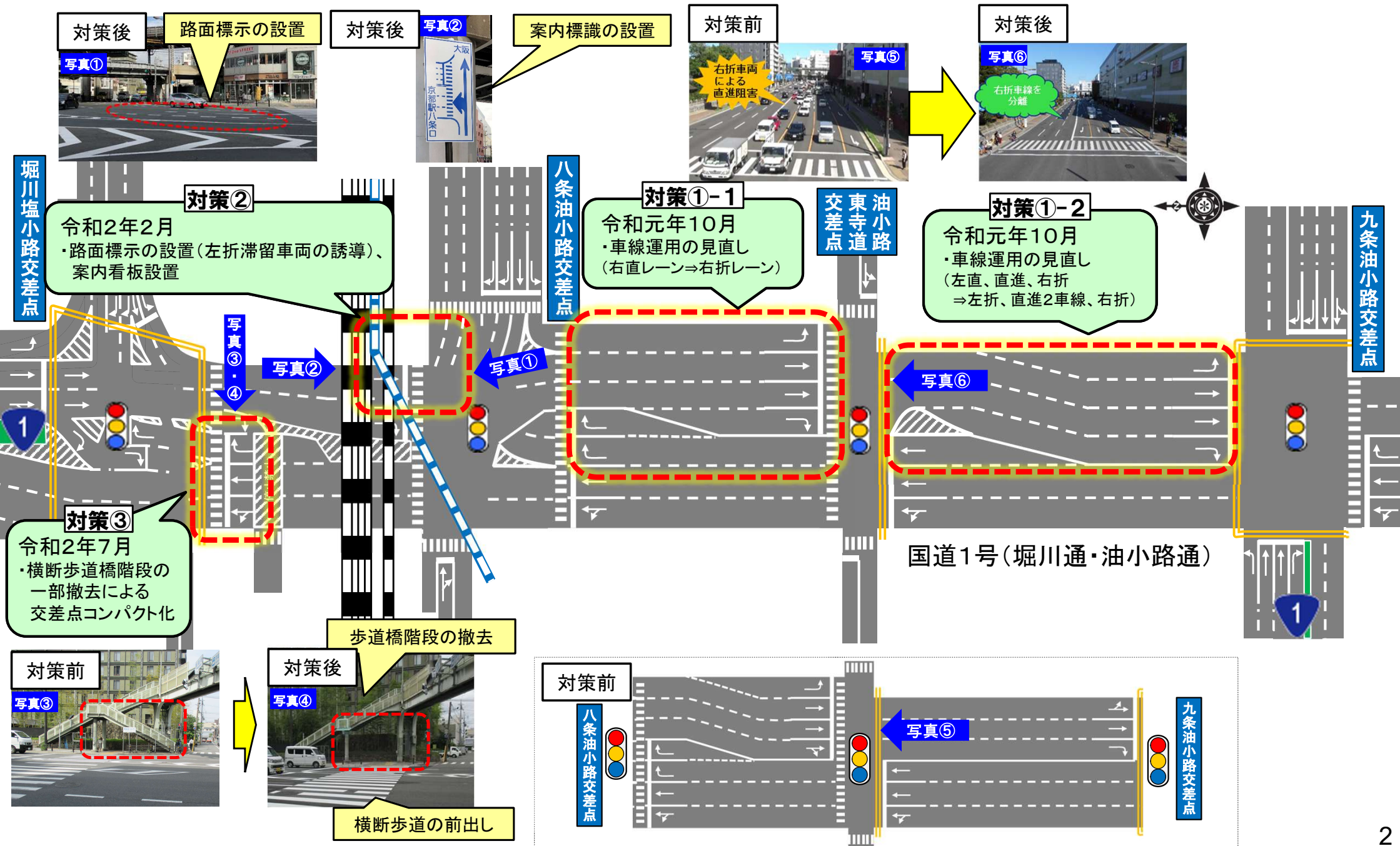
短期対策案の検討

- ・交通シミュレーションによる分析
- ・渋滞対策検討

※H30年時点の車線運用の概略

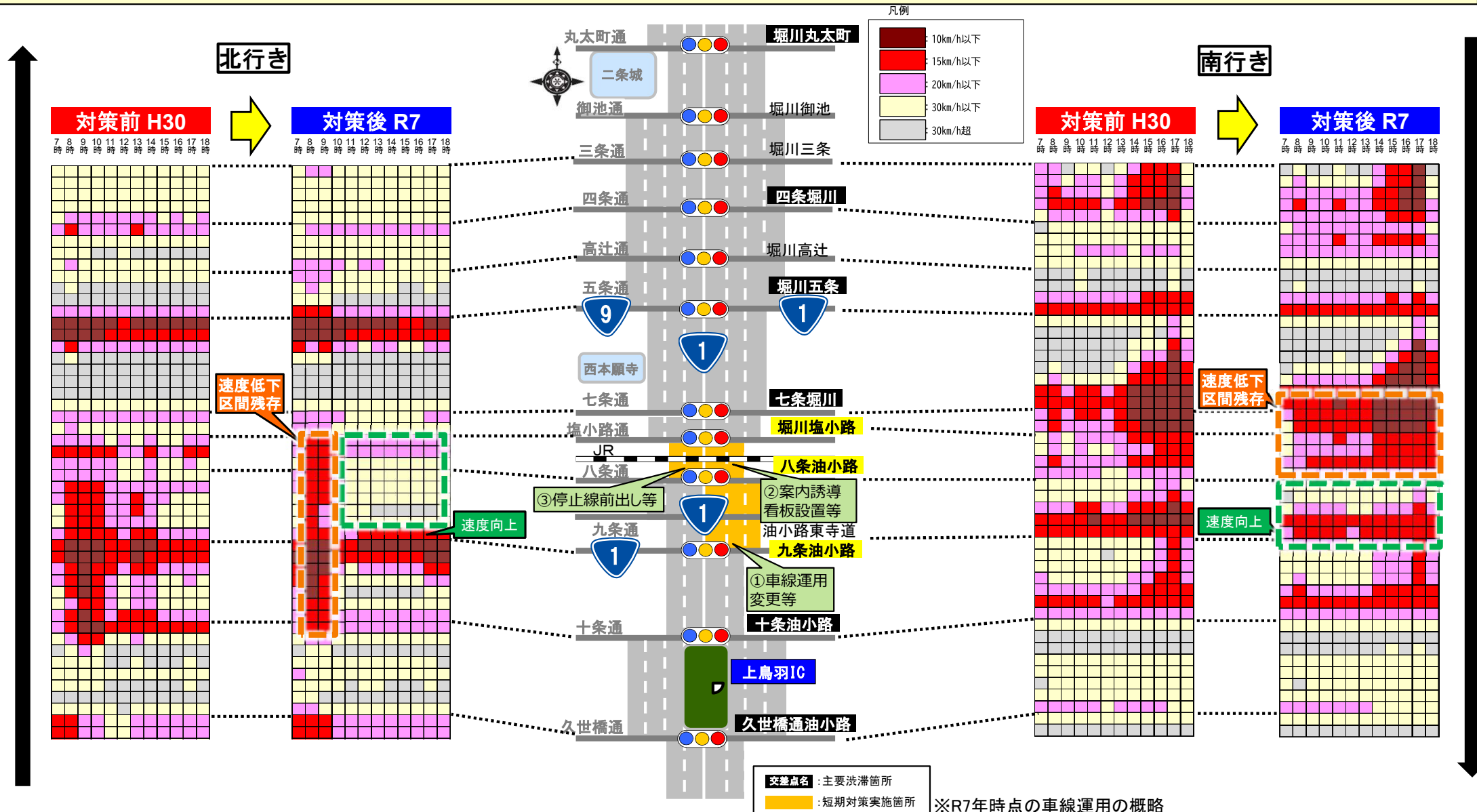
1. 過年度の短期対策内容(堀川塩小路～九条油小路)

○国道1号(堀川通・油小路通)で令和元年から令和2年に主要渋滞箇所において短期対策を実施。



2. 堀川通・油小路通の現況(旅行速度)

○令和元年～令和2年に実施した短期対策により、北行きは堀川塩小路交差点流入部、南行きは九条油小路交差点流入部の平均旅行速度が向上。対策実施前後で速度の改善が見られた。【緑色破線】
○しかし、時間帯や区間によっては速度低下が発生している。【オレンジ色破線】



出典)ETC2.0プローブデータ 対策前: H30. 9 ~ 11(平日12時間 7時~19時) 対策後: R7. 9 ~ 11(平日12時間 7時~19時)

(参考)ボトルネック指数の概要

ボトルネック指数は計測期間内での発生割合（頻度）を算定したもの

ボトルネック値（BN値）：「渋滞の先頭のなりやすさ」を表す

渋滞影響値（AQ値）：「前方の渋滞の影響の受けやすさ」を表す

＞ 別々に算定

■算出方法

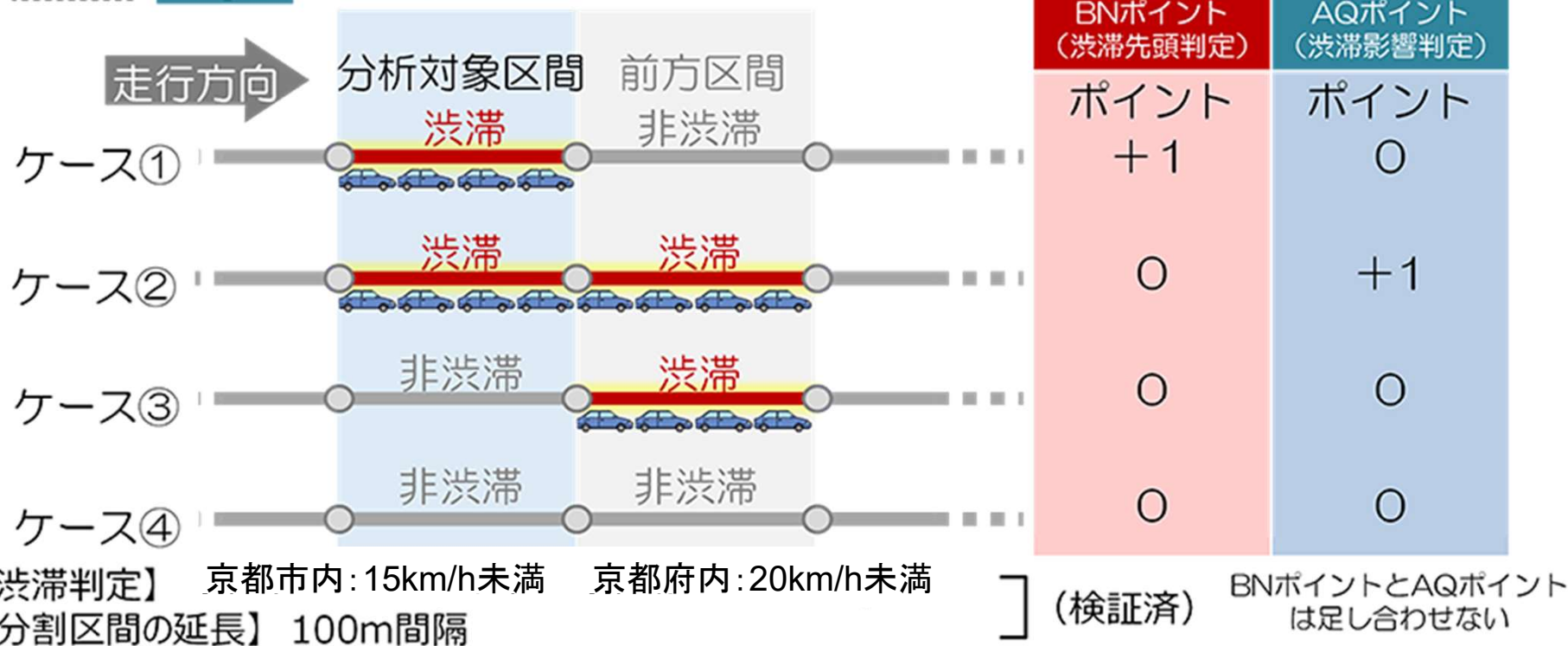
- ・分析対象路線を等間隔に分割し、区間毎に日別時間帯別の旅行速度を算出し、「渋滞」と「非渋滞」を判定
- ・分割区間とその下流側に隣接する区間の「渋滞」と「非渋滞」の組合せからボトルネック指数を算定

BN
指数

BN値 = 総BNポイント/計測期間日数

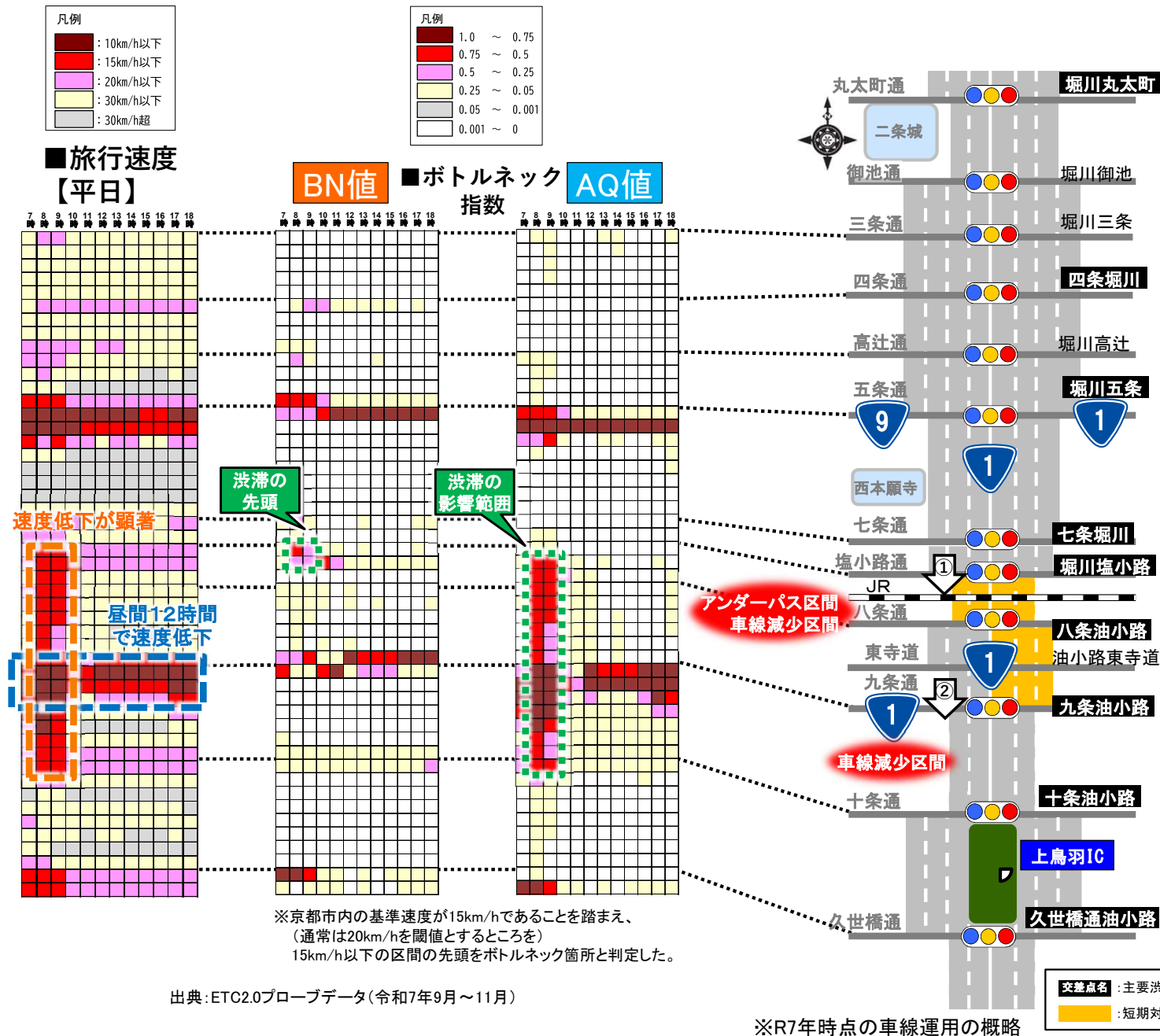
AQ値 = 総AQポイント/計測期間日数

※BN : Bottleneck
AQ : Affected Queue

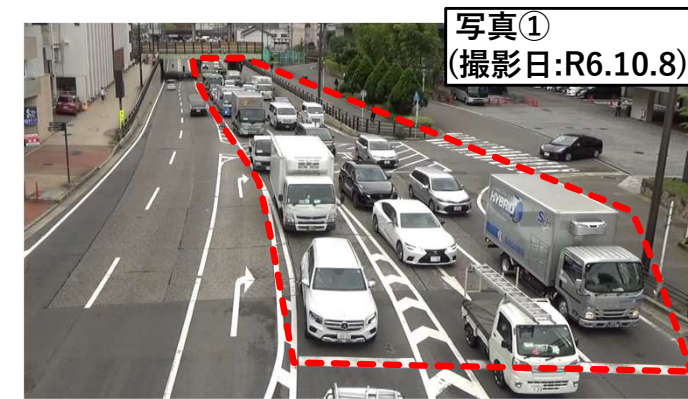


3. 堀川通・油小路通の課題【北行き】

○朝ピークで堀川塩小路から十条油小路まで速度低下が顕著であり、九条油小路では昼間12時間で速度低下が発生。【旅行速度のオレンジ色、青色破線】
○堀川塩小路がボトルネックとなり十条油小路まで影響が発生。堀川五条や九条油小路もボトルネックだが影響範囲は短い。【AQ値、BN値の緑破線】



朝ピークの堀川塩小路における滞留状況



朝ピークの九条油小路における滞留状況



※R7年時点の車線運用の概略

3. 堀川通・油小路通の課題【南行き】

○14時～18時に八条油小路で速度低下が顕著に出ており八条油小路を先頭として堀川五条まで昼間12時間で速度低下が発生。【旅行速度のオレンジ色、青色破線】
○八条油小路・堀川塩小路で先詰まりが発生しており、七条堀川まで渋滞の影響が発生。【AQ値、BN値の緑破線】

